認知症や意思疎通が困難な人の新型コロナワクチン接種のための意思決定の手引き

活動開始：2021 年 6 月

趣旨：

2021 年 4 月、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックに対処する有用な方法として、高齢者施設におけるワクチン接種が開始されました。一方、高齢者施設や障害者施設には、認知症をはじめ、意思決定能力が低下して意思疎通が難しい方が多く、本人の意向を確認することが困難な状況が見受けられました。特に、本人から有効な同意を得ることが難しい場合や、家族等の代理判断者がいない場合には、施設関係者が対応に苦慮するという倫理的課題がありました。

そこで、日本臨床倫理学会は、この倫理的問題の重要性を踏まえ、会員から寄せられたパブリックコメントを基に、本ワーキンググループで検討を重ね、「認知症や意思疎通が困難な人の新型コロナワクチン接種のための意思決定の手引き」を作成しました。本手引きでは、本人の意思決定能力を先入観なく適切に評価し、能力に応じて意思決定への参加を支援するとともに、本人による選択、家族等による本人意思の推定、本人の最善の利益、公衆衛生上の視点を踏まえた意思決定プロセスを示しています。新型コロナワクチン接種に関わる施設関係者や医療・ケアチームの意思決定支援に役立つことを目的とします。

構成員（五十音順、2021 年 6 月現在）：

＜メンバー＞

＊池田　徳博（池田法律税務事務所）
＊稲葉　一人（中京大学 法務総合教育研究機構）
＊金沢　英哲（浜松市リハビリテーション病院）
＊川﨑　ゆかり（介護老人保健施設 宇治徳洲苑）
＊下畑　享良（岐阜大学大学院 医科学系研究科）
＊竹下　啓（東海大学医学部 基盤診療学系医療倫理学）
＊成本　迅（京都府立医科大学大学院）
＊新田　國夫（新田クリニック）
＊藤澤　大介（慶應義塾大学病院 医療安全管理部）
＊藤島　一郎（浜松市リハビリテーション病院）
＊箕岡　真子（箕岡医院）

本ワーキンググループの成果は、以下の手引きとしてまとめられています。

『認知症や意思疎通が困難な人の新型コロナワクチン接種のための意思決定の手引き』